# 『かけがわ型
# 架け橋カリキュラム』
# 作成に向けて

～幼児教育を学校教育へつなぐ～

令和５年３月　掛川市教育委員会

# ～　目次　～


1　**「かけがわ型架け橋カリキュラム」とは**　P. 4

・架け橋期について

・「かけがわ型架け橋カリキュラム」

2　**円滑な接続を図るために**　P. 5

・「交流」から「連携」そして、「接続」へ

・「連携」「接続」が進むとこんな良いことが！

3　**幼児期の学びから児童期の学びへ**　P. 6

・幼児期の学びについて

・学びの芽生えから自覚的な学びへ

・幼児期の教育と児童期の教育の特徴について　P. 7

4　**幼児期から児童期へ「つなぐ」**　P. 8

・幼児教育から高等学校教育まで貫くもの

・資質・能力の三つの柱

・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）　P. 9

5　**未来を切り拓く「３つの創る力」**　P.10

・「創像力」「創合力」「創律力」について

・学習指導要領とのつながりについて　P.11

6　**「かけがわ型架け橋カリキュラム」の留意点**　P.12
・生活科を中心とした合科的・関連的な指導の工夫
・生活に即した学びの構成　P.13
・弾力的な時間割の工夫
・園での環境構成　P.14
・学習環境の工夫　P.15

7　**幼児教育と学校教育の「ジョイント活動」栽培**　P.16
・幼児期『夏野菜を育てよう！』
・児童期『げんきにそだてわたしのはな』　P.17

**幼児教育と学校教育の「ジョイント活動」自然**　P.18
・幼児期『秋の自然物を使って遊ぼう！』
・児童期『あきとなかよし』　P.19

# １「かけがわ型架け橋カリキュラム」とは

## 架け橋期について

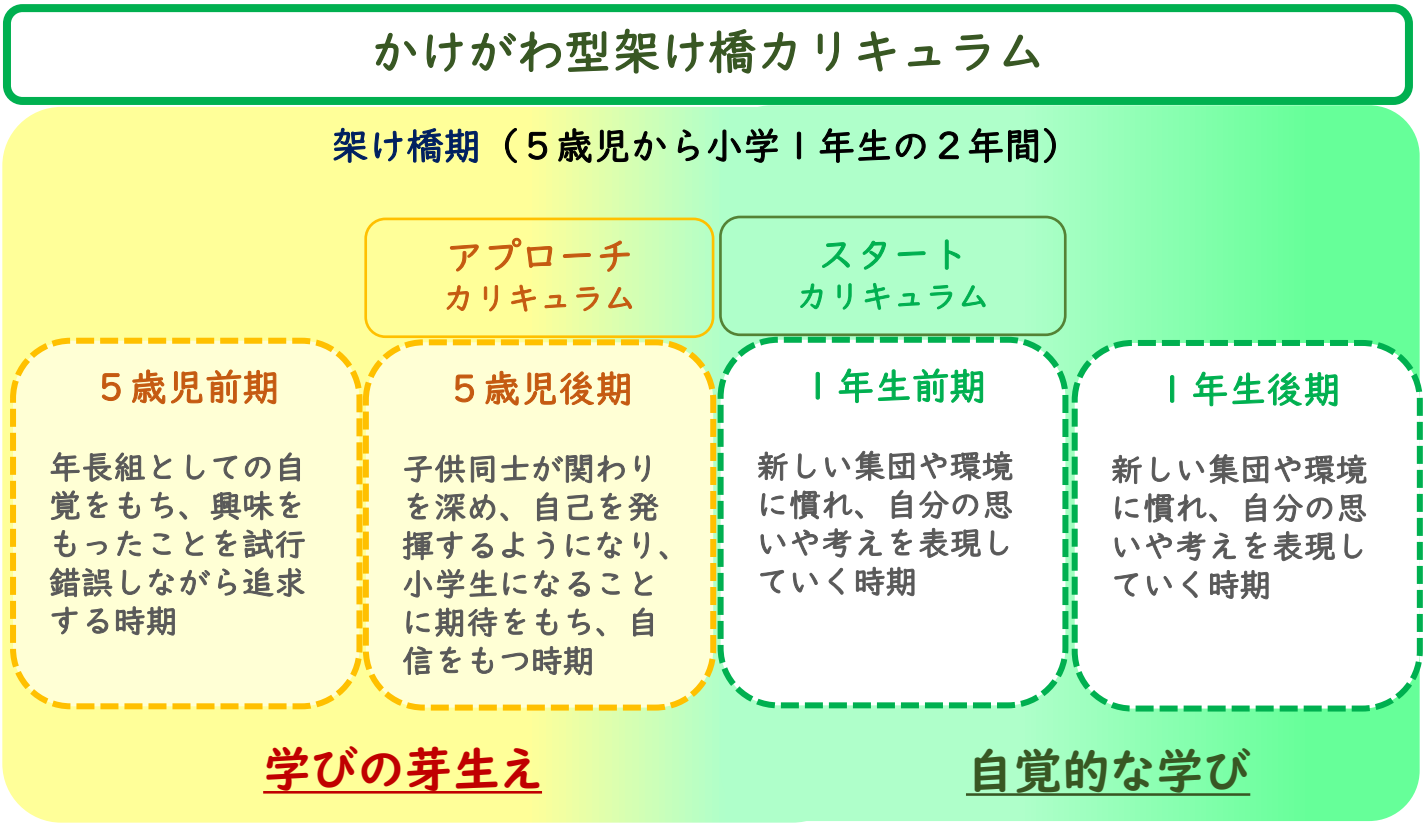
義務教育開始前後の「５歳児から小学１年生の２年間」を「架け橋期」と呼びます。

この時期は、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるために大変重要な時期です。

「接続期」と呼ばれていた５歳児後半から小学１年生の夏休み前までの時期よりも、長い期間で幼小の接続を考えていく必要があることから、架け橋期の２年間が重要な時期となります。

## 「かけがわ型架け橋カリキュラム」

「かけがわ型架け橋カリキュラム」は、５歳児のアプローチカリキュラムと小学１年生の入学当初から夏休み前までのスタートカリキュラムをつなぐカリキュラムを含めた架け橋期全体のカリキュラムのことで、幼児期の育ちや学びを小学校教育につなげるためのカリキュラムです。（下図参照）



# 2　円滑な接続を図るために

## 「交流」から「連携」そして、「接続」へ

**「交流」とは**

子供同士、教員同士の行事・保育・授業への参加等

**「連携」とは**

年間計画に基づいた互換性のある交流や保育者と教員の意見交換等

**「接続」とは**

「幼児期の教育」と「小学校の教育」のつながりを大切にした教育

## 「連携」「接続」が進むと　こんな良いことが！

### 子供にとって良いこと

・幼児期に親しんだ活動を取り入れたり、分かりやすく学びに向かう環境づくりをしたりすることで、安心して学校生活をスタートできる。
・安心して生活することで、自分のもっている力を発揮することができる。
・活動や体験を通して、学びに向かう力を育むことができる。
・６年間（９年間）の学びの基礎をつくることができる。

**安心・成長・自立につながる**

### 先生 学校にとって良いこと

・幼児期に子供が経験していることが、学校教育にどのようにつながるかイメージできる。
・幼児期から児童期への発達の流れの理解につながる。
・これまでの授業観等が変わりより指導力が高まる。

### 保護者にとって良いこと

・学校生活への不安が解消され、保護者は安心して子供を学校に送り出せる。

・学校への理解と信頼につながる。

# 3　幼児期の学びから児童期の学びへ

## 幼児期の学びについて

幼児期は、遊びを通して学びます。知識を教えられて身に付けていく時期ではありません。遊びを中心として、頭も心も体も動かして、主体的に様々な対象と関わりながら、総合的に学んでいく「学びの芽生え」の時期です。遊びを通して、思考をめぐらし、想像力を発揮し、また、友達と共有したり協力したりして育っていきます。

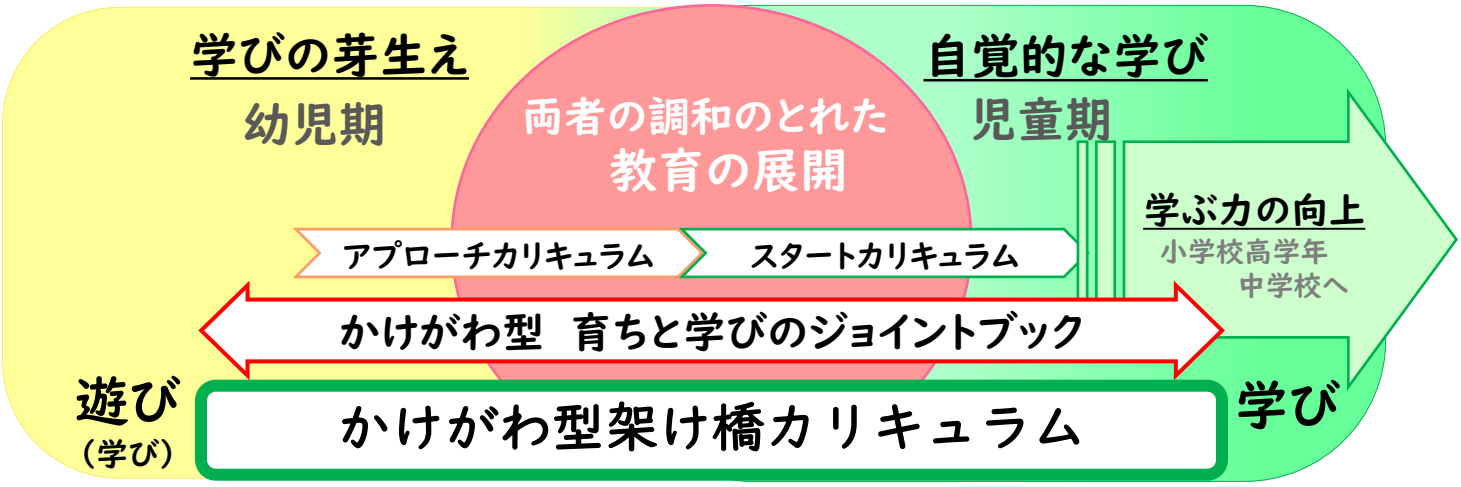
５歳児後半ごろの幼児は、生活の流れを意識しながら気持ちを切り替えて次の活動に移るようになります。また、活動の目的の達成や課題解決のため、目的や課題を自分ごととして受け止め、友達と力を合わせて活動し、長期間にわたって取り組む姿が見られます。

## 学びの芽生えから自覚的な学びへ

幼児期から児童期にかけての時期は、学びの芽生えから次第に、自覚的な学び（学ぶという意識がある、課題を自分のものとして受け止める、計画的に学習する等）へと発展していく時期のため、学びの芽生えと自覚的な学びの両者の調和のとれた教育を展開することが必要です。

幼児期の教育においては、調べる・比べる・協同する等の様々な手法を組み合わせて、楽しみながら課題を解決する活動を通じて、学びの芽生えから自覚的な学びへつながっていくような活動を展開することが求められます。

児童期の教育においては、自覚的な学びの確立を図るとともに、自分ごととして課題を捉え、活動に没頭する中で生じた発見や驚きを大切にし、学ぶ意欲を育てるといった活動を取り入れることが大切です。



# 幼児期の教育と児童期の教育の特徴について

幼児期の教育は、遊びを中心として、環境を通して行われます。

児童期の教育は、教科ごとの学習が中心で、学ぶべき到達目標があります。時間割や日課表、指導計画等をもとに計画的に学習が進められます。

幼児期の教育と児童期の教育では、それぞれの発達の特性から、教育課程の編成や教育方法等に違いがあります。

まず、幼児教育と学校教育の違いを理解することが重要です。

また、幼小の連携・接続をする際、一方が他方に合わせるものではないことに留意しましょう。（下図参照）

| | 幼児教育施設 | 小学校 |
|---|---|---|
| 教育の方法 | 遊びを中心とした、環境を通して行われる教育 | 教科等の学習を中心とした教育 |
| 教育のねらい・目標 | 方向目標<br>「～を味わう」「感じる」等の心情・意欲・態度の方向づけを重視 | 到達目標<br>「～できるようにする」等といった目標への到達度を重視 |
| 教育課程 | 経験カリキュラム<br>一人一人の生活や経験を重視 | 教科カリキュラム<br>学問の体系を重視 |
| 活動形態 | 個人、友達、小集団 | 学級、学年 |
| 学習や生活の時間・空間 | 時間、空間の設定が弾力的<br>幼児期にふさわしい生活の展開を踏まえ、興味・関心に応じた活動時間を設定 | 時間、空間の設定が固定的<br>主に時間割に基づき、教科等の授業を設定<br>授業と授業の合間に休み時間を設定 |

## 幼児期の「遊び」について

幼児期には、まず子供たち一人ひとりの大好きな、夢中になれる遊びを保障することが何より大切です。重要なことは、子供たちが自ら「遊ぶ」こと、遊びにのめり込んで、またやってみたいと思うことです。

遊びを通して、様々なものやこと、人と出会い、多くのことを知らず知らずのうちに学んでいくものです。

つまり、幼児期の「遊び」は、大切な「学び」です。

# 4　幼児期から児童期へ「つなぐ」

## 幼児教育から高等学校教育まで貫くもの

「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」「（小学校以上の）学習指導要領」すべてにおいて、育みたい資質・能力が「知識及び技能（の基礎）」「思考力、判断力、表現力等（の基礎）」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱に整理されました。

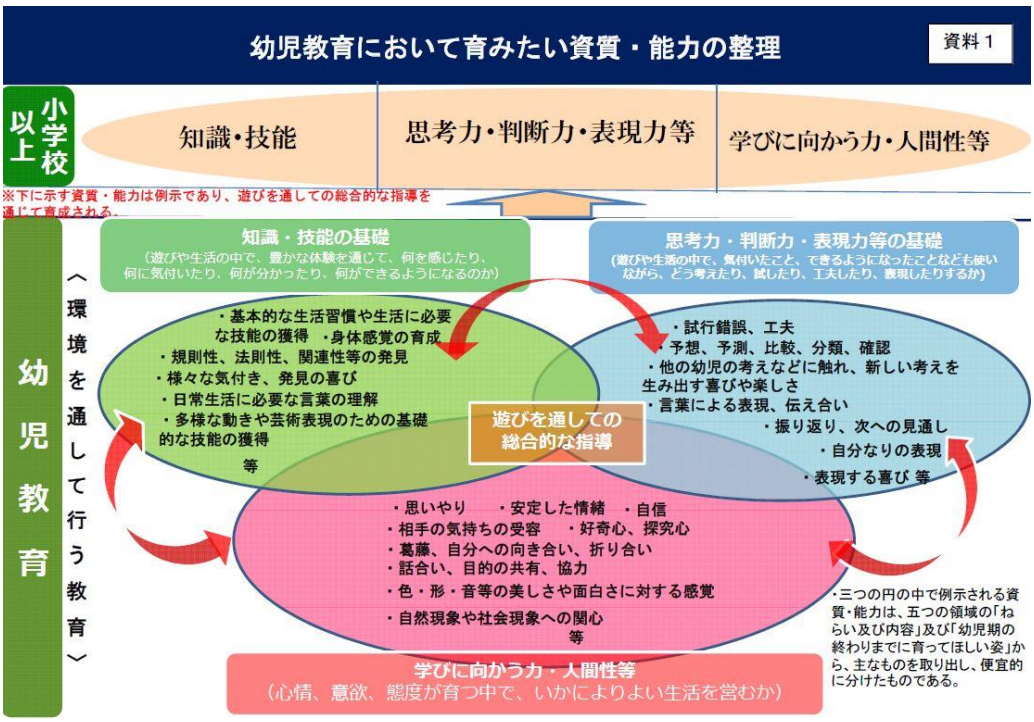
校種を問わず、幼児教育から高等学校教育まで、共通するこの資質・能力で子供を育てることがうたわれました。

## 資質・能力の三つの柱

幼児期は、人間形成の基盤となる時期のため、「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」のように、基礎という言葉で表現されています。しかし、「学びに向かう力、人間性等」では、児童期以降と同じ表現となっています。

幼児教育では、三つの円が重なり合い、両方の矢印で示されているように、それぞれ系列立てて育てるものではなく、順序性もなく育まれていくものです。

様々な遊びを経験する中から「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」が育まれていきます。




文部科学省「幼児教育部会における審議の取りまとめ」より

# 幼時期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）

幼児教育から学校教育への円滑な接続を図るために、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が「幼稚園教育要領」等で明記されました。

幼児期から児童期への連携や接続を進めるためには、幼児期の遊びの中の学びを児童期の教科等の学びにつなげることがポイントとなります。

しかし、遊びの中の学びを捉えることは簡単なことではありません。そこで、この「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が手掛かりとなります。

ただ、これらの10の姿は、到達目標ではなく、１項目ずつ取り出して指導したり評価したりするものではないことを理解しておきましょう。

**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）**

① 健康な心と体
② 自立心
③ 協同性
④ 道徳性・規範意識の芽生え
⑤ 社会生活との関わり
⑥ 思考力の芽生え
⑦ 自然との関わり・生命尊重
⑧ 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
⑨ 言葉による伝え合い
⑩ 豊かな感性と表現

横のつながりとして、子供が、幼稚園、保育園、幼保連携型認定こども園のどの園を修了しても、幼児期にふさわしい育ちと学びが見られるようにすることも大切です。

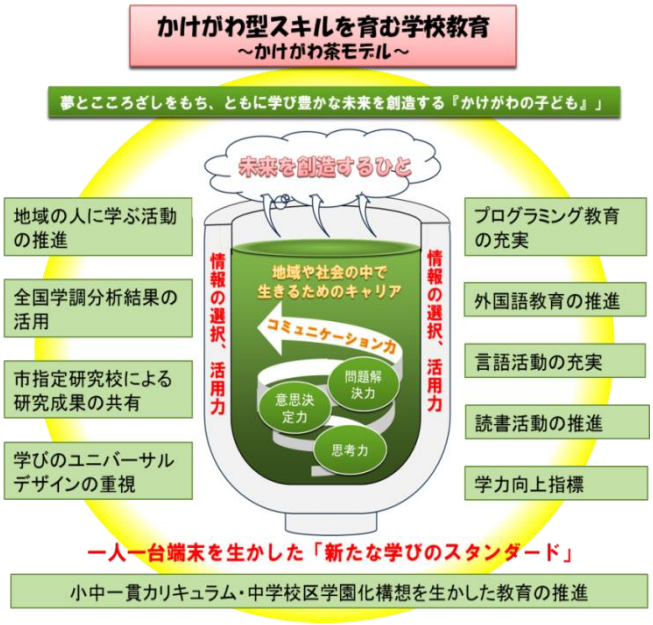
# 5　未来を切り拓く「３つの創る力」

## 「創像力（そうぞうりょく）」「創合力（そうごうりょく）」「創律力（そうりつりょく）」について

掛川市ではこれまで、子供たちが自発的に「かけがわ型スキル」を発揮しながら学べるよう働き掛け、成長を促してきました。（右図参照）

この成果は、全国学力・学習状況調査においてもよい結果としてあらわれており、確実に学力を伸ばしてきています。

そのような中、『「令和の日本型学校教育の構築を目指して」（令和３年１月26日中央教育審議会答申）』が示されました。




掛川市教育委員会
「かけがわ学力向上ものがたり」より

その中で、急激に変化する時代の中、育むべき資質・能力として、「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められている。」と述べられています。

これを受け、掛川市として、未来を担う子供たちのためにどのような「力」を育む必要があるのかを検討し、以下の未来を切り拓く「3つの創る力」に集約しました。

**「創像力」ー先を見通し、考えを収集・分析・整理・統合しながら、新たな価値を生み出していく力**

**「創合力」ー多様な他者と力を合わせ、物事を様々な視点から見つめ、試行錯誤しながら協合する力**

**「創律力」ー自分を見つめつつ、自覚と責任をもち、自ら課題を見つけ、学び、行動し続ける力**

## 学習指導要領とのつながりについて

学習指導要領において、「確かな学力」とは、『知識や技能に加えて、学ぶ意欲や、自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力等までを含めたものを指します。』と書かれています。

さらに、新しい時代に必要となる資質・能力として、次の三つの柱が提示されています。

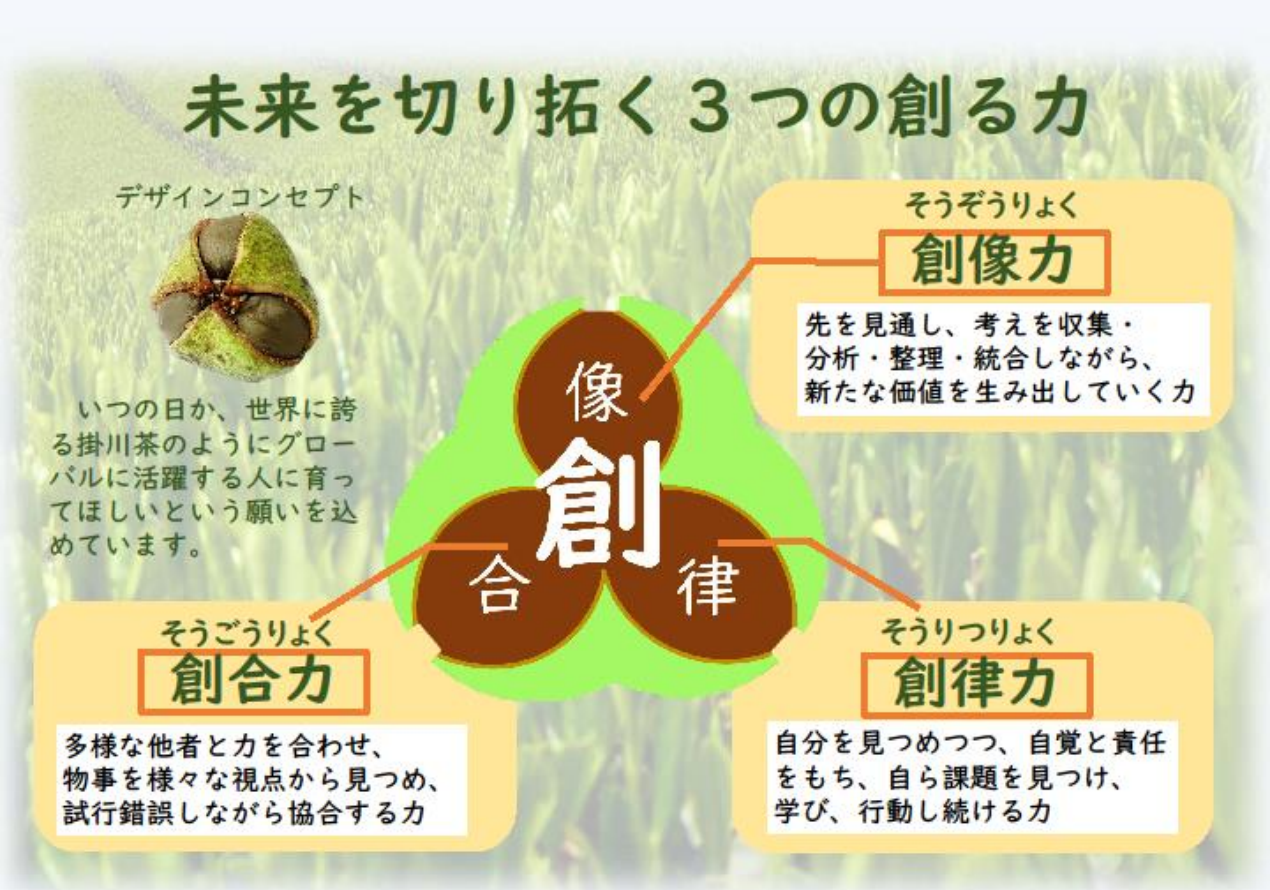
**①生きて働く「知識・技能」の習得**

**②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成**

**③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養**

新しい価値を生み出すために、情報を収集・整理・分析・統合しながら（創像力）、多様な他者と協働し（創合力）、学び続ける（創律力）ような経験を繰り返す中で、学習指導要領で示された「確かな学力」、そして新しい時代に必要となる資質・能力も確実に身に付けられます。

授業者は、子供たちがこれらの資質・能力を繰り返し発揮できるような学びの場を意識して授業づくりをしていかなくてはなりません。




掛川市教育委員会「かけがわ学力向上ものがたり」より

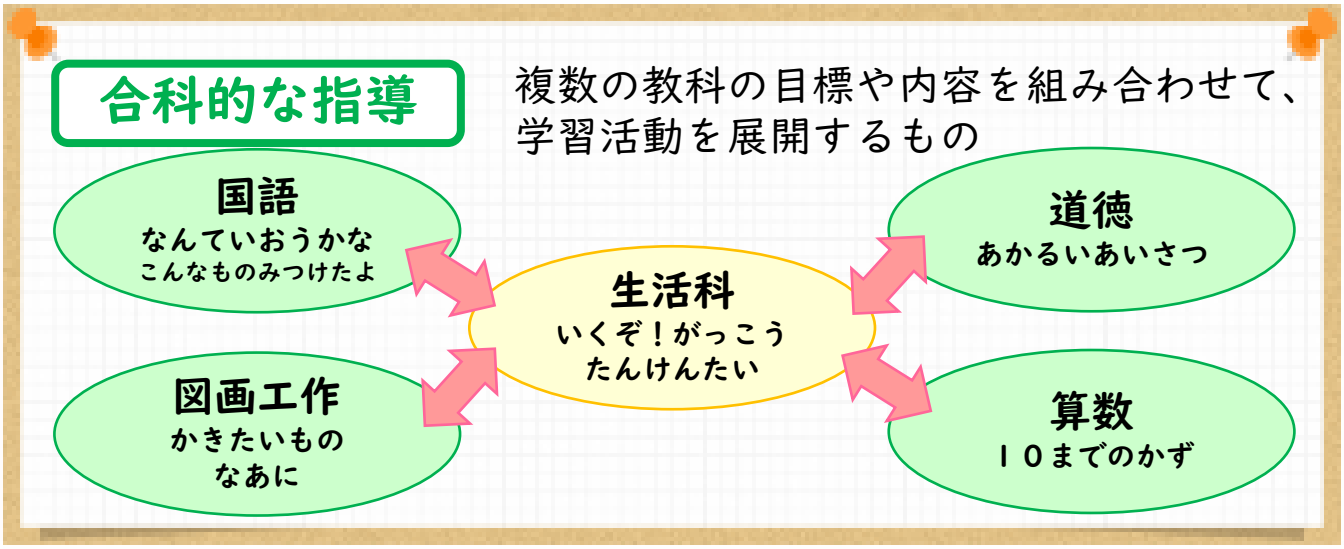
# 6「かけがわ型架け橋カリキュラム」の留意点

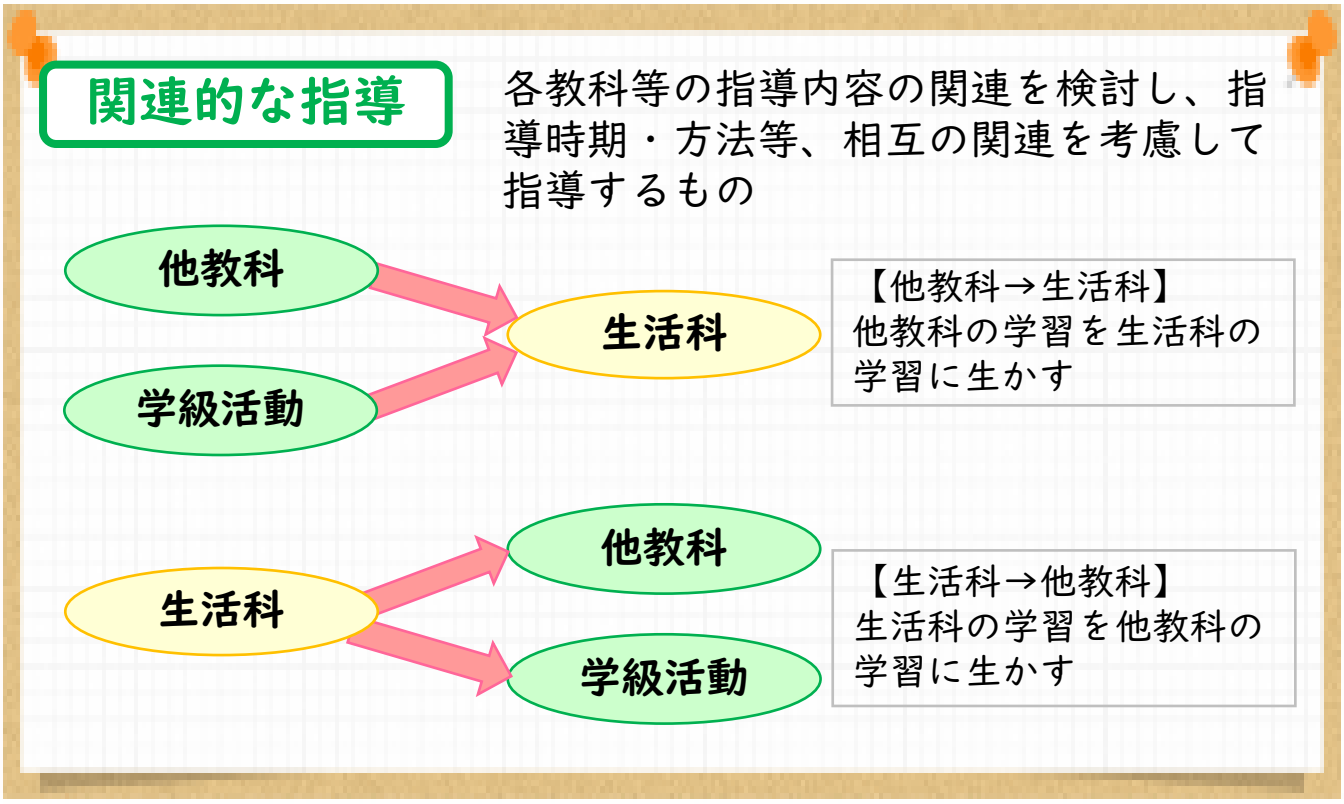
## 生活科を中心とした合科的・関連的な指導の工夫

架け橋カリキュラムの編成・実施に当たっては、生活科を中心に行うことが重要です。生活科が、「幼児期の教育と小学校教育との接続を意識するとともに、児童の発達を踏まえ、児童の思いや願いを基に活動を展開していく教科」であるからです。

生活科を中心として、他教科と合科的・関連的な指導を行ったり、子供の生活とつながる学習活動を取り入れたりすることが大切です。

生活科での学習活動が他教科等での題材になったり、生活科で身に付けた資質・能力が他教科において発揮されたりするなど、一層の学習効果が期待されます。



## 生活に即した学びの構成

架け橋期の小学１年生は、生活が丸ごと学習環境になります。

日々の生活の中で生まれる子供の「興味・関心」や「思い・願い」をきっかけにすることで、子供たちは主体的に活動を展開していきます。

教師が、一方的に与えた活動ではなく、子供たちのつぶやきや行動から学習につながりそうなものを捉えて、単元構想・授業づくりに生かしていくことが大切です。

## 弾力的な時間割の工夫

架け橋期の入学当初の子供の発達特性に配慮し、10分や15分程度の短い時間で時間割を設定したり、子供が自らの思いや願いを実現するための活動の時間を確保するために、45分から60分・90分と長い時間で設定する等、弾力的に運用していく工夫が必要です。

時間割に子供を合わせるのではなく、子供の実態に合わせて時間割を柔軟に組み替えていくことも大切です。

【第１週】　■せいかつタイム　■なかよしタイム　■まなびタイム

| 時間 | 学校の日課 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 8:00 | 朝活動 | 朝のしたくをしよう（ランドセル、靴、文房具のしまい方、提出物の出し方） | トイレの使い方を考えよう（トイレや手洗い場の使い方） | 困った時はどうする？（保健室への出入りの仕方、保健の先生への挨拶の仕方、尋ね方） | 困った時はどうする？（職員室への出入りの仕方、職員室の先生への挨拶の仕方・尋ね方） | 並んで歩こう（整列の仕方、運動場への避難の仕方） |
| 8:15 | 朝の会 | | | | | |
| 8:30 | 1時間目 | 手遊び歌や仲間集め遊び、読み聞かせをして、心をほぐそう | | | | |
| 8:45 | | あいさつしよう（国） | はっきり話そう（国） | | お名前　教えて（国） | 好きなものなあに（国） |
| 9:00 | | 字をかいてみよう（国） | | | | |
| 9:15 | 休み時間 | 休み時間 | 休み時間 | 休み時間 | 休み時間 | 休み時間 |
| 9:25 | 2時間目 | 自己紹介の仕方を考えよう | 隣のクラスの友達に自己紹介をしよう | もっとたくさんの人と知り合いになるにはどうすればいいのかな？ | もっとたくさん、もっとよい名刺をつくろう（名刺作り） | 上級生や先生方に名刺を渡しに行こう |
| 9:40 | | 友達に自己紹介しよう | | | | |
| 9:55 | | | 隣のクラスの友達とも一緒に遊ぼう | 名刺を作ろう（名刺作り） | 片づけをしよう | 上級生や先生方と一緒に遊んでみよう |
| 10:05 | 業間休み | 校庭で友達と一緒に遊んでみよう | | | 誰に渡そうか？どうやって渡せばいいかな？（他教室への出入りの仕方、声の掛け方） | |
| 10:30 | 3時間目 | | | 片づけをしよう | | 振り返ろう |
| 10:45 | | 振り返ろう | 振り返ろう | 振り返ろう | 振り返ろう | |
| 11:00 | | | | | | |
| 11:15 | 休み時間 | 休み時間 | 休み時間 | 休み時間 | 休み時間 | 休み時間 |
| 11:25 | 4時間目 | みんなで協力して、給食の準備をしよう（手洗い、身支度、配膳の仕方） | | | | |
| 11:40 | | マナーを守り、残さず、楽しく食べよう | | | | |
| 11:55 | | みんなで協力して、給食の片付けをしよう（食器等の片付け方、配膳台などの拭き方、歯磨き手洗いの仕方） | | | | |
| 12:10 | 給食 | 帰りのしたくをしよう（身支度の仕方、プリントの配り方もらい方）<br>車に気をつけて帰ろう（下校の仕方） | | | | |
| 12:50 | 昼休み | | | | | |
| 13:20 | 掃除 | | | | | |
| 13:40 | 5時間目 | | | | | |
| 13:55 | | | | | | |
| 14:10 | | | | | | |
| 14:25 | 帰りの会 | | | | | |
| 時数カウント | | 国語：9　生活科：3　音楽：1　図工：1　体育：3　特別活動：3　打切り：5　合計25 | | | | |

静岡県教育委員会『静岡県版幼小接続モデルカリキュラム「じぶんでできた！いっしょにやろう！」』より

## 園での環境構成

幼児教育は、環境を通して行う教育を基本としています。幼児期の主体的な活動（遊び）は、学校教育と異なり、活動の到達目標が決まっているわけではありません。そのため、子供たちから芽生えた興味や疑問を大切に育んでいくための「保育者の支援や環境構成」が欠かせません。幼児教育では、子供たちの「やりたい」「どうなっているの？」「どうして？」というような気持ちが徐々に深まっていくような環境構成が大切です。

様々などんぐり・まつぼっくり

「なんのたねかな？」クイズ

どんぐりひろば

教室の前には、左のような「どんぐりひろば」が作られていました。

子供たちは、様々な種類のどんぐりを転がしたり、友達といろいろなコースを作って試したりしたそうです。子供たちの「つぶやき、疑問、わくわく」に沿った、先生方の環境づくりがあったからこそ、そのような子供の姿が見られたと思います。

「秋の食べ物なぁ～んだ」クイズ

「冬の食べ物」お鍋づくり

# 学校での学習環境の工夫「視覚に訴える表示」

「見れば分かる」「見ればできる」ようにするための視覚的な支援があることで、子供が自分の力で、生活していける環境づくりになります。

言葉で説明するだけでなく、文字や図、写真等を掲示することは、子供の理解の助けとなります。

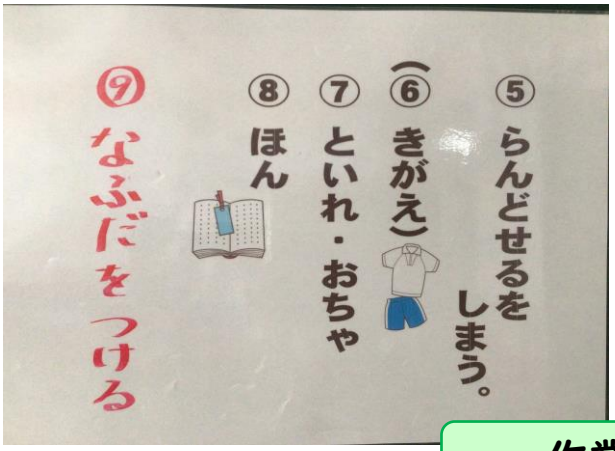
また、１年生の目線の高さを意識し、表示の高さを考えることも大切です。

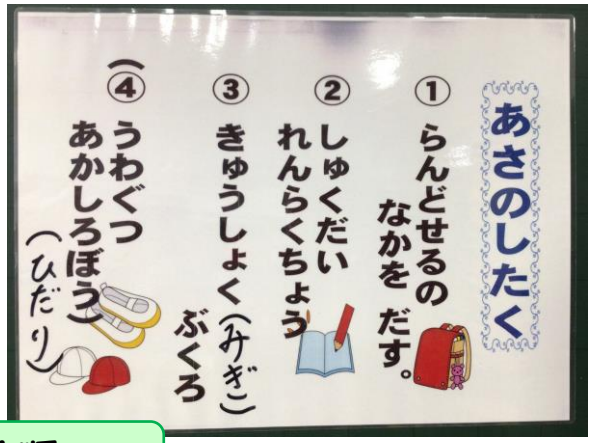
ロッカーの使い方

机の中の使い方

学習の足跡

片付け方




作業の手順

# 7 幼児教育と学校教育の「ジョイント活動」栽培

## 幼児期（５歳児）『夏野菜を育てよう！』

【ねらい】
○野菜を育てることを通して、野菜の成長に興味・関心をもつ。
○収穫を喜び、料理をして、みんなで食べる楽しさを味わう。

太枠は全員が経験する活動

＜ねらいとする学び＞
- 夏野菜への興味・関心⑤⑥⑦
- 収穫までの過程、喜び②⑦⑧
- 料理の楽しさ②③④
- 食への興味、喜び①⑦⑨

○数字＝10の姿

**栽培年間計画**

【春】
ジャガイモの種芋植え（前年の冬から）

ジャガイモの収穫
サツマイモのつるさし
【夏】
夏野菜
トマト
キュウリ
ナス

【秋】
サツマイモの収穫(クッキング・リース作り)
冬野菜
ブロッコリー
ミニ大根

【冬】
冬野菜の収穫
（クッキング）

### 夏野菜を育てよう

- かぼちゃがいいな
- 野菜？きらい！
- とうもろこしが食べたい
- …

### どんなものを育てて食べたいかな

- なすは嫌だな
- すいかが食べたい
- おじいちゃんがきゅうり作ってるよ

### みんなで買いに行こう

- マイバックがほしいね
- あるかな
- ○○に売ってたよ
- …

### みんなで植えよう・お世話しよう

- ○○ちゃんと一緒に水をあげよう
- 太陽があたる所に置く
- 本を見よう
- …
- いつ芽が出るかな
- つるだ
- 葉っぱがたくさんだね
- あれ？なんか枯れちゃってる
- 緑のトマトができた！食べられるかな？

### 収穫しよう

- 1.2.3…たくさんできてうれしいな
- 家に持って帰りたいな
- 大きい
- …
- 早く食べようよ！
- なんか虫に食べられてる！

### 収穫した野菜で料理を作ろう

- 切る時はねこの手だよ
- カレーを作って食べたいな
- ルーがほしいよ
- エプロンを持ってこよう
- おいしいね
- ナスは嫌いだけど、おいしい

**環境構成や援助のポイント等**

- 絵本コーナーに野菜の本、図鑑を置く。⑤⑥⑦
- 話し合いの場を設定する。③⑨
- 家庭通信の発行、写真掲示等をする。⑤⑩

- 植える時のポイントや水かけ、草取り等の援助を行う。②③
- 野菜の数の一覧表（シール、色塗り等）を用意する。⑦⑧⑨

- 料理に必要な持ち物の確認や、調理器具の扱いの見届けを行う。①②③④
- 家庭通信の発行、写真掲示等をする。⑤⑩

**ジョイント活動とは**

園小接続のポイントとなる、園での経験が小学校の学びにつながる活動のことです。

## 児童期（小学１年）生活科『げんきにそだてわたしのはな』

【目　標】①植物を育てる活動を通して、植物は生命をもっていることや成長していることに気付いている。（知識・技能）
②植物を育てる活動を通して、植物の育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけている。（思考・判断・表現）
③植物を育てる活動を通して、生き物への親しみをもち、大切にしようとしている。（主体的に学習に取り組む態度）

園小接続のポイント等

**単元を貫く学習課題**

**１　どのはなをそだてたいかな**
①植物によって種の形や大きさ、色に違いがあることに気付いている。
②自分が育てたい植物を選んだり、決めたりしている。
③自分が育てたい植物について関心をもち、思いや願いをもって関わろうとしている。

どんな植物を育てたことがあるか、それからどんな遊びをしたか等、幼児期の経験を喚起させる。

**２　たねをまこう**
①自分が育てる植物の種の特徴に気付いている。
②種の大きさを考えて、まく場所や数を工夫して、種まきをしている。
③自分が育てる植物について、発芽や成長を楽しみにしながら、種まきをしようとしている。

愛着をもって種まきができるように、種との出会いを大切にする。

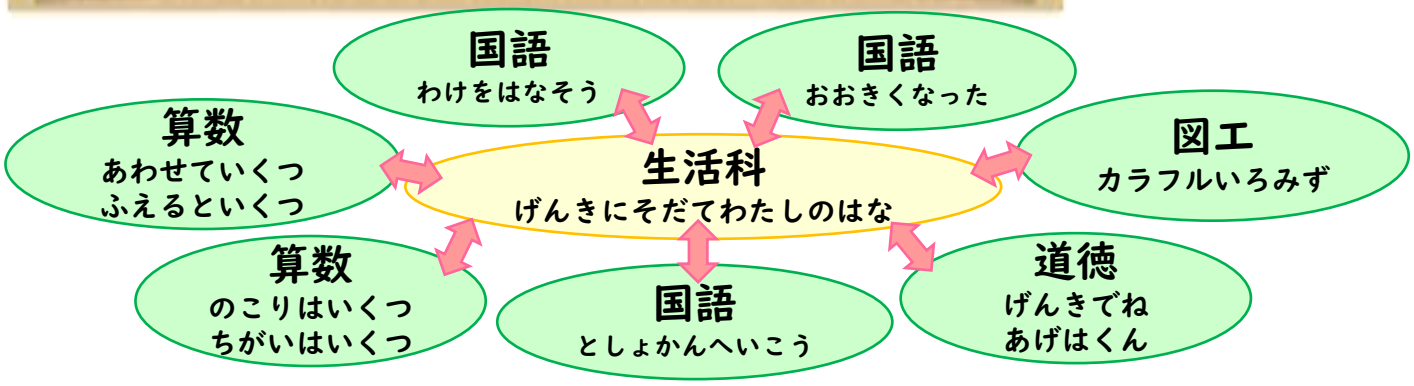
**３　せわをしよう**
①植物の成長する様子や変化に気付き、成長に合った世話の仕方があることに気付いている。
②成長の様子を意識し、世話の仕方を工夫したり観察したりしている。
③元気に大きく成長してほしいという思いや願いをもって継続的に世話をしようとしている。

幼児期に植物を育てた経験を生かし、日当たりのよい場所、ボール遊び等で鉢が倒れない場所等、自分なりに考えた最良の場所に置くようにする。

**４　じっくりみよう**
①育てている植物の葉や花、育ち方の特徴に気付いている。
②植物の変化や成長の様子を調べたり、変化の様子を想像したりしながら関わっている。
③成長する様子や変化に関心をもち、じっくり観察しようとしている。

**５　みつけたひみつをつたえよう**
①植物への親しみが増し、上手に世話ができるようになった自分自身の成長に気付いている。
②植物と自分との関わりを振り返り、感じたこと考えたこと等を自分なりの方法で表現している。
③振り返ったことを友達や先生、家の人等に伝えようとしている。

元気に育ってほしい、たくさん花が咲いてほしい等の願いを大切に関われるようにする。



# 7 幼児教育と学校教育の「ジョイント活動」自然

## 幼児期（５歳児）『秋の自然物を使って遊ぼう！』

【ねらい】
〇秋の自然物に興味をもち、集めたり、遊びに使ったりする。
〇友達と思いを出し合いながら、工夫して遊ぶことを楽しむ。

太枠は全員が経験する活動

＜ねらいとする学び＞
・秋の自然物への興味 ⑦⑧⑨
・考えたり、工夫して作る楽しさ②⑤⑨⑩
・友達と思いを伝え合って遊ぶ楽しさ ③④⑧⑨

〇数字＝10の姿

**自然との関わり**

【春】
**春の草花**
タンポポ
つくし
菜の花
**生き物**
ダンゴムシ
テントウムシ

【夏】
**夏の草花**
サルビア
マリーゴールド
**生き物**
ザリガニ
カブトムシ
バッタ
カマキリ

【秋】
**木の実・種**
どんぐり
まつぼっくり
あさがおのつる
ふうせんかずら

**樹木**
イチョウ・紅葉
落ち葉
**生き物**
コオロギ
スズムシ

【冬】
**冬の草花**
パンジー
ビオラ
チューリップ

### 秋の自然物にふれよう

- ほうきみたいな草があるね
- 落ち葉がいっぱいだね
- …

### どんぐりを見つけよう

- 〇〇公園にたくさんあったよ
- 年中の時に行った公園に行きたい
- どんぐりのぼうしの形がちがうね
- …
- これすごい大きいね

### どんぐりやまつぼっくりで遊ぼう

- たくさん入れると音がなるよ
- どんぐり転がしをやろう
- …
- まつぼっくりに飾りをつけたい
- 空き箱を使おう
- かべを作ろう

### もっと探そう

- こんな大きなまつぼっくりがあったよ
- この実何かな？
- じゅず玉だよ
- ネックレスになりそう
- …
- どんぐりコマしたり、転がしゲームしたりしよう
- きれいな色の葉っぱがいっぱいあるよ
- みんなでお店屋さんができそうだね

### 年中少さんを招待しよう

- チケットを作ろう
- 案内係もほしいね
- おまけのおもちゃも作ろう
- …
- お金も作ろう
- お客さんが来てくれてうれしいな
- これ壊れちゃった
- お店屋さん楽しいね またやりたいな
- 年少さんには、簡単にしてあげようよ

**環境構成や援助のポイント等**

・子供と一緒に自然物を仕分けたり、表示したりする。⑥⑦⑨
・工夫して遊べるよう教材や用具を用意する。②③④⑥

・絵本コーナーに、秋の植物や昆虫の図鑑を置く。⑥⑦⑧
・子供の様子で遊びの場を設定する。②③⑥⑨

・お店屋さんの話し合いの場を作る。③④⑥⑨
・年中少児への優しい関わりを認めていく。③④⑤⑨
・家庭通信
・写真掲示　等

**ジョイント活動とは**

園小接続のポイントとなる、園での経験が小学校の学びにつながる活動のことです。

# 児童期（小学１年）生活科『あきとなかよし』

【目　標】
①秋の自然の様子や夏から秋への変化、それを利用した遊びの面白さに気付いている。（知識・技能）
②秋とその他の季節との違いや特徴を見付けたり、遊びや遊びに使うものを工夫してつくったりしている。（思考・判断・表現）
③季節の変化を取り入れ自分の生活を楽しくしたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしている。（主体的に学習に取り組む態度）

園小接続のポイント等

**単元を貫く学習課題**

**１　あきはどんなきせつかな？**
①夏から秋へ自然の様子が変化していることに気付いている。
②身の回りで感じられる季節の様子や変化について考えたり予想したりして、それらを探す計画を立てている。
③身の回りに感じられる季節の様子や変化に関心をもち、それらを見付けようとしている。

図画工作や国語、音楽等との関連を図った単元構想を考える。

**２　校庭や学校のまわりで、あきをさがそう**
①植物の変化から、季節が変わったことや自然の不思議さや面白さに気付いている。
②季節による変化や特徴を見付け、利用した遊びを考えている。
③秋の生き物や植物に関心をもち、校庭や公園等の様子の変化を探そうとしている。

単元に入る前に、園ではどのような活動をしたか保育士に聞く。

**３　見つけた秋をじっくり見よう**
①伝え合うことを通して、秋らしさや自然の変化に気付いている。
②木の実や落ち葉等を観察したり、比べたりして、秋の特徴を捉えたり、秋らしさを考えたりしている。
③季節による変化や特徴について発見したことや感じたことを友達に伝えようとしている。

秋の植物でどんな遊びをしたか等、幼児期の経験を喚起させる。

**４　見つけた秋で遊んでみよう**
①みんなが楽しく遊べるように、遊び方やルール、伝え方の工夫が必要であることに気付いている。
②比べる、試す、見立てる等し、遊ぶものを工夫して作っている。
③友達の良さを取り入れたり、自分との違いを生かしたりして遊びを楽しくしようとしている。

調べたい子供のために、学校司書と協力し、学級の本棚に、関連する本や図鑑を準備しておく。

**５　みんなであそぼう**
①秋の自然物の不思議さや面白さに気付いている。単元の振り返りを通して、自分や友達の頑張りに気付いている。
②分かりやすく伝えたり、ルールや約束を工夫したりしている。
③秋ランドを開くために、必要な役割を話し合ったり、準備をしたりして、みんなで協力して楽しもうとしている。

友達と工夫しながら遊ぶ楽しさを大切に関われるようにする。

**生活科**
あきとなかよし

- **国語**　ものの名まえ
- **国語**　てがみでしらせよう
- **算数**　たしざんひきざん
- **図画工作**　ならべてならべて
- **体育**　リズム遊び
- **地域**　登下校時の自然への気付き
- **音楽**　どんぐりさんのおうち

【令和４年度「かけがわ型架け橋カリキュラム開発会議」委員】

| | | |
|---|---|---|
| 委 員 長 | 田宮　縁 | 静岡大学教育学部　教授 |
| 副委員長 | 小澤　直明 | かけがわ乳幼児教育未来学会　副会長 |
| 副委員長 | 永井　和典 | 佐束小学校　校長 |
| 委　　員 | 平野理枝子 | 中小学校　教頭 |
| 委　　員 | 山梨　規子 | すこやかこども園　園長 |
| 委　　員 | 岡田　博次 | 桜木こどもの森　園長 |
| 委　　員 | 原田　留奈 | 掛川こども園　主幹保育教諭 |
| 委　　員 | 鈴木　雅子 | おおさかこども園　主幹保育教諭 |
| 委　　員 | 金子　紋也 | 桜木小学校　主幹教諭 |
| 委　　員 | 堀池　久美 | 大坂小学校　教務主任 |
| アドバイザー | 三輪　直司 | 県教育委員会義務教育課　教育主任 |

【事務局】

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 課　　長 | 柳瀬　昭夫 | 学校教育課 | ・ 課　　長 | 石田梨江子 | こども希望課 |
| 主席指導主事 | 染葉美智子 | 学校教育課 | ・ 主席指導主事 | 齊藤加代子 | こども希望課 |
| 指導主事 | 増田七奈子 | 学校教育課 | ・ 指導主事 | 福島　純子 | こども希望課 |
| 指導主事 | 笹瀬　知沙 | 学校教育課 | | | |